

成績概要書(2003 年 1 月作成)

研究課題：道央地域における露地での宿根草および球根類の生育、開花特性

(新しい道産花きの開発普及促進事業)

担当部署：花・野菜技術センター 研究部 花き科

協力分担：

予算区分：事業

研究期間：1998 ～ 2002 年度

1.目的

消費者の花きの新規性を求める声に応えるため、従来の品目に加え、道内に適した新しい品目を見つけたことを目標として、当センターでは 1998 年より「新しい道産花きの開発普及推進事業」を開始した。本成績は露地での据え置き栽培を行い花きの生育、開花特性の調査資料を提供することにより今後の道内で利用・消費する花きの拡大に貢献することを目的としている。

2.試験方法

定植時期・種類数

宿根草：平成 10 年 5 月 22 日定植 35 品目 50 品種、9 月 28 日定植 5 品目 12 品種、
平成 11 年 5 月 28、31 日定植 34 品目 45 品種 計 65 品目 107 品種

球根類：平成 10 年 10 月 27 日定植 39 品目 64 品種

試験規模：一区 0.4 m² (8 株) 反復無し

供試土壌：造成砂壤土

栽植方法：ベッド幅 1 m、4 条植え・株間 20 cm、白黒ダブルマルチ

施肥量：平成 10 年 5 月 N、P₂O₅、K₂O 各 1.5kg/ a、堆肥 300kg/ a

追肥：各年融雪後 N、P₂O₅、K₂O 各 0.5kg/ a

雑草が目立ち始めた時点で除草を行った。

3.成果の概要

1) 宿根草全 65 品目 107 品種および球根類全 39 品目 64 品種について露地での据え置き栽培を行い、うち越冬性の優れていた宿根草 44 品目 63 品種および球根類 12 品目 17 品種について生育および開花特性を示した。

2) 生育特性については萌芽期、草丈、節数を、開花特性については開花始め、開花期、開花終わり、花茎数、花蕾数、花色を調査した。

宿根草(第 1 表)

生育特性について

・草丈 30cm 前後の品目・品種の一部は地表全体を覆い尽くすため雑草の繁殖をある程度抑制した。そのためグラウンドカバーとしての利用が期待される。

・生育の優れていた品目・品種の中でも草丈が 1m 前後にまで達するものが全体の 50 %近くを占め、切り花としての利用も期待される。

・草丈が 50cm 程度の品目・品種には花茎数・花蕾数が多いため開花時には全体的にボリュームが感じられるものもあり、花壇での栽培も適していると思われる。

開花特性について

・ほとんどの品目・品種で開花期間は 1 ヶ月前後であったが、なかには 2 ヶ月以上の長期に渡るものも存在した。

・50%以上の品目・品種の開花期が 6 ～ 7 月に集中した。開花期が最も早いものは 5 月上旬であった。また、開花期が最も遅い品種は 10 月中旬であった。

球根類(第 2 表)

生育特性について

・最初の年のみ開花した品目・品種や、経年的に生育が劣っていくものが多く見られた。

・一般に草丈は低く花壇に適していると思われるが、草丈が 1m 近くに達する品目・品種も存在し、切り花としても利用可能である。

開花特性について

開花期が 7 月であるものは 4 品目 4 品種、6 月であるものは 4 品目 8 品種存在し、全体の約 2/3 がこの時期に集中して開花することが判明した。

・開花期が早い品目・品種では 4 月下旬から開花を始めた。開花期が遅いものでは 9 月中旬であった。

第1表 宿根草の生育および開花特性(抜粋)

No.	品目名	品種名	萌芽期および開花期							草丈(cm)	草姿	花色	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
23	クリスマスローズ・オリエンタリス	レッド								20	立ち性	赤	枯葉せず越冬
51	ナルコユリ									50	立ち性	白	斑入り品種
49	テルモプシス	キバナセンダイハギ								90	立ち性	黄	地下茎により広範囲
25	ケマンソウ	白色種								40	立ち性	白	
1	アエゴボデューム									40	匍匐性	白	観葉性有り
6	アジュガ・レプタンス									20	匍匐性	紫	枯葉せず越冬
92	ラナンキュラス	ゴールドカップ								50	匍匐性	黄	ランナーで生育拡大
35	シレネ・ブルガリス									60	半匍匐性	白	花茎が次々と伸長
70	ペロニカ	ブルーフォンテン								50	立ち性	青	
30	シベリアアヤメ									100	立ち性	白	
8	アルケミラ・モーリス									60	立ち性	黄	
50	トロリウス	ゴールドクイーン								80	立ち性	橙	
97	リシマキア・ヌムタリタ									40	匍匐性	黄	
98	リシマキア・フンクタータ									50	立ち性	黄	
99	リナリア・フルブレア	パープル								100	立ち性	紫	種子繁殖が旺盛
40	セントーレア・デアルバータ									50	立ち性	紫	
75	ボテンディラ	ミスウィルモット								90	半匍匐性	赤	
43	ダイアースカモミール									60	立ち性	黄	開花終わり後も少輪開花
65	ヘメロカリス									60	立ち性	橙	
14	カラマツソウ	キバナカラマツソウ								150	立ち性	黄	
63	フロックス・マキユラータ	オメガ								90	立ち性	白	
94	リシマキア・キリアータ	ファイヤークラッカー								100	立ち性	黄	観葉性有り
36	ジンジャーミント									40	立ち性	桃	葉に芳香性有り
44	タイム									10	匍匐性	桃	枯葉せず越冬
67	ヘレニウム	サーメンワンダー								90	立ち性	黄	
52	ハクチョウソウ	ピンク								100	立ち性	桃	枝垂れ性
54	ヒメトリス									80	立ち性	黄	
7	アスター(ワセシオン)	ブルーレイク								80	立ち性	紫	
28	コレオシス	アメリカンドリーム								40	立ち性	桃	
15	カラムシナ・ネベタ									50	立ち性	白	葉に芳香性有り
41	ソリダゴ	クラ								120	立ち性	黄	アブラムシ発生
87	モナルダ	ラベンダー								110	立ち性	紫	葉に芳香性有り
58	フィステギア	アルバ								80	立ち性	白	
105	矮性アガパンサス	ピーターパンホワイト								50	立ち性	白	
61	フロックス・パニキュラータ	ニッキー								80	立ち性	桃	うどんこ病発生
77	マウンテンミント									90	立ち性	白	葉に芳香性有り
107	ワレモコウ	すい星								150	立ち性	赤	
76	ポルドーグ									90	立ち性	紫	
12	オミナエシ									110	立ち性	黄	
3	アガパンサス									80	立ち性	青	
42	ソリダスター	スーパーソリダスター								80	立ち性	黄	
31	シュウメイギク	シロ								80	立ち性	白	
89	ユーバトリウム	コエレスティナム								50	立ち性	紫	
19	クジャクアスター	ホワイトスター								80	立ち性	白	

同品目で開花特性が類似した品種が複数存在するものについては1品種を残してのこりは抜粋した

※萌芽期、開花始め、開花期、開花終わりについて平均的な時期について月旬で示した

※：萌芽期、開花期、着色期：開花はじめてから開花終わりまで

第2表 球根類の生育および開花特性

No.	品目名	品種名	萌芽期および開花期							草丈(cm)	花色	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
27	カタクリ									10	紫	
24	カタクリ	黄								40	黄	増殖率良好
26	カタクリ	白								20	白	
29	寒咲き水仙	房咲き								30	黄	
31	黒百合									40	黒	下向きに開花
22	オーニソガラム・ウンベラタム									20	白	増殖率良好
32	シラー・カンパニユラータ	アルバ								30	白	芳香性有り
37	シラー・カンパニユラータ	ロゼア								30	桃	芳香性有り
34	シラー・カンパニユラータ	デインティメイド								40	桃	芳香性有り
35	シラー・カンパニユラータ	ブルー								30	青	芳香性有り
4	アリウム・モーリー									30	黄	増殖率良好
5	アリウム・ユニフォーリウム									40	桃	
40	トリテレイア・ブリッジジャー									30	紫	増殖率良好
28	カロコリス・ルデア									40	黄	
2	アリウム	丹頂								80	赤	増殖率良好
55	フロディア・カリフォルニカ									50	紫	
59	リコリス・インカルナータ									60	桃	

※萌芽期、開花始め、開花期、開花終わりについて平均的な時期について月旬で示した

※：萌芽期、開花期、着色期：開花はじめてから開花終わりまで

4.成果の活用面と留意点

- ・道内の花きの利用場面において、今回明らかにされた特性を参考にすることが可能である。
- ・本成績が造成砂壤土据え置き露地・マルチ栽培の結果であるという点および豪雪地帯である当センター圃場内で調査されている点に留意する。

5.残された問題点とその対応

- ・道内各地における品種特性の調査の必要性。